

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 8 号を公表したので送付します。

令和 2 年度病害虫発生予察注意報第 8 号

- 1 作物名 コギク（年末出荷用）
- 2 病害虫名 黒斑・褐斑病
- 3 発生地域 沖縄群島

4 注意報発令の根拠

沖縄本島における 10 月のほ場調査の結果、本病害の発病葉率は 4.44%（平年値：0.17%）、発生ほ場率 62.5%（平年値：5.5%）となり、平年と比べ多発生となっている（図 1、図 2）。病害虫防除員報告から久米島地区で多発生との報告があった。

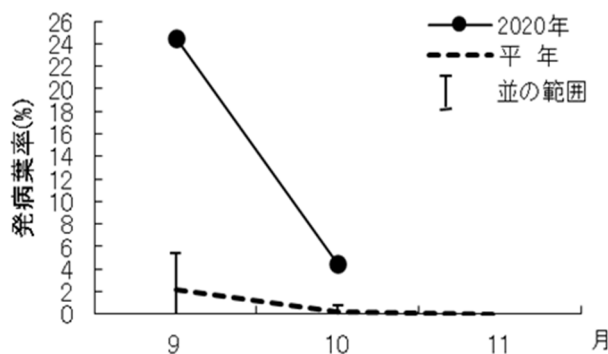


図 1 黒斑・褐斑病の発病葉率の推移

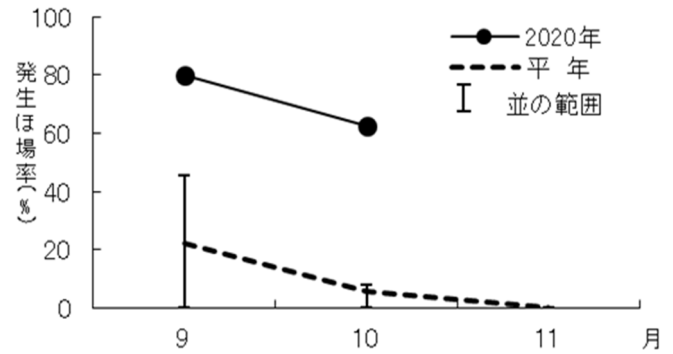


図 2 黒斑・褐斑病の発生ほ場率の推移

5 発生生態および被害

- (1) 褐斑病の病原菌は *Septoria obesa* H&P.Sydow で発病適温は 20～28℃で多湿時や肥料切れした場合等に発生が多い。病徴は初め不規則な褐色少斑点を生じ、のちに不正形、楕円形、円形の黄褐色ないし黒褐色病斑となる。黒斑病の病原菌は *Septoria chysanthemella* Sccardo で発病適温は 24～28℃で褐斑病同様に多湿時や肥料切れした場合等に発生が多い。病徴は褐斑病にきわめて類似する(図 3)。
- (2) 伝染源は感染親株ならびに摘心後の株で、被害葉上に形成される柄子殻から風雨により柄胞子が飛散し、周囲に伝播する。
- (3) 多発時では大型病斑が増加し、下葉から枯れ上がり、上位葉へと進展する。ひどい場合には半数以上の葉が枯死する。
- (4) 高温多湿条件で多発する。また、肥料切れや窒素過多により発生が助長される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。
- (2) 発病葉は速やかに除去する。
- (3) 施肥管理を適正に行う。
- (4) ほ場の排水・通風を良くする。
- (5) 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- (6) 連作ほ場、とくに暖地では1年中キクがあり伝染源が途切れないため、摘心後から生育初期に症状の有無にかかわらず防除を行う。



図3 多発時の様子